

# 第16回 伊賀市非核平和推進 中学生広島派遣事業 報告書

2022（令和4）年8月5日（金）

8月6日（土）



伊賀市・伊賀市教育委員会・伊賀市中学校長会



# 第16回伊賀市非核平和推進

## 中学生広島派遣事業 派遣生徒 紹介

崇広中学校  
仲宗根 羽那



緑ヶ丘中学校  
長辻 悠生



城東中学校  
本多 琉央斗



上野南中学校  
粒來 啓太



柘植中学校  
徳永 有美



霊峰中学校  
伊藤 まりえ あゆみ



島ヶ原中学校  
金子 裕人



阿山中学校  
中林 優夢

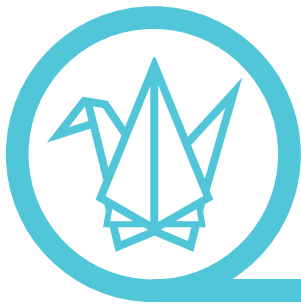


大山田中学校  
中田 皓仁



青山中学校  
吉村 和珠





7月29日（金）  
事前学習会



8月27日（土）  
報告会（ひゅーまんフェスタ）





8月5日 (金)



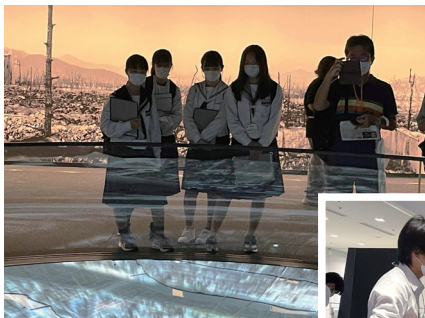
出発式

原爆ドーム見学



被爆体験講話

平和記念資料館見学



折りづるの献納





8月6日(土)

## 広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式参列



## 本川小学校平和資料館見学

## おりづるタワー見学





## 伊賀市立崇広中学校 仲宗根 羽那

私が広島派遣に参加して、1番心に残ったことは、被爆体験をお話して下さった川崎さんの話です。その中でも原爆が投下された直後の川崎さんの心情が私の心に残りました。それは、「何か大変なことが起きているということは、分かったが、何が起きているのかは分からなかった。家族に迷惑をかけてはいけない。」と川崎さんが言っていたことです。川崎さんは、当時7才だったそうです。私は、その話を聞き、胸が痛みました。小さい子が何が起きているのかも、なぜそうなったのかも分からず、家族がケガをしていたり、そこら中にやけどをした人が倒れていたり…。当時の様子を想像するだけでもとても恐ろしいです。

本川小学校平和資料館では、原爆の高温で溶けたガラスや、焼けた缶詰、黒い雨がつついた跡の壁などを見学しました。その中でも原爆による爆風で曲がった壁が印象に残りました。崩れた壁は今までに見たことはありませんでしたが、曲がった壁は見たことがなかったからです。

二日間、色々な体験をして、改めて戦争は、そして、原爆は一瞬でたくさんの人の命を奪い、残された人達にも苦しみを与え続けているものだということを感じました。それと同時に今を生きている私たちが、これからも戦争の悲惨さを忘れず、二度と戦争を起こさないという強い思いを持つことが大切であると感じました。私は、これからも戦争や平和について学び続け、私たちができることを発信していきたいです。



## 伊賀市立緑ヶ丘中学校 長辻 悠生

私は広島派遣に参加し、みなさんに特に伝えたいことが二つあります。一つ目は、原爆ドームです。原爆ドームの大部分が焼け、大量のレンガが落ち、鉄骨だけになっている姿は原爆の悲惨さを物語っていました。また、原爆ドームを管理している方からは、原爆投下という悲劇を後世に伝えていくことの重要さや原爆をこの世界からなくそうという思いを強く感じました。

二つ目は、広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式です。そこには岸田総理や各国の代表者、国連事務総長が出席していて、戦争をなくす意識が世界中で高まっていることを感じました。そして、小学生から国を代表する総理大臣までもが、戦争をなくそうとウクライナ侵攻を例に、身近な問題としてとらえていることに心を打たれました。

私はこの広島派遣を通して、家族や緑ヶ丘中学校のみんな・周りの人たちに、原爆を含め戦争は多くの人の命を奪い、悲しみをもたらすものであることを伝え、二度と起こさせない、世界中で戦争を身近にとらえ、それに反対し続けるという決意を持ちました。



## 伊賀市立城東中学校 本多 琉央斗

私は広島に行って、心に残っていることが二つあります。

一つ目は、川崎さんの被爆体験のおはなしです。戦争当時の主食は、米・麦・さつまいも・おかゆ・ぞうすい・大豆などでした。食べるものも着るものもなく、外国からの輸入もありませんでした。だから、食糧不足で餓死することがよくあったそうです。戦争で使う武器を作るための鉄が無くなると、お寺の鐘や鍋などの鉄を国に納めないといけないこともあったそうです。私はこの話を聴いて、戦争は一人一人の大切な命を大切にしておらず、人が死んでしまっても武器を作る方を優先していたことにすごく衝撃を受けました。

二つ目は、本川小学校の見学に行ったことです。まず入口に入ると大量の折り鶴があり、その鶴で「平和」という文字が作られていました。地下に入ると壁にその当時の被害の跡や溶けたガラス、ぐにゃぐにゃになったビンなどが展示されていました。どれも原爆の威力がすごく強かったことが感じられて、ぞっとしました。そして出口のところにあった「安らかに眠ってください。過ちは繰り返しませぬから。」という言葉が強く心に残りました。

二日間広島に行って、私は戦争のことをこれまでよりずっと実感をもって考えることができました。この経験を、家族や友達など身近な人に話していきたいです。そしていろんな人が戦争や平和を考えるきっかけになればいいと思いました。



## 伊賀市立上野南中学校 粒來 啓太

僕が広島派遣で特に心に残っていることは、二つあります。

一つ目は平和記念資料館で見た、被爆した当時の写真です。子どもの身体中にある火傷の痕を見た時、僕はとても悲しく、つらい気持ちになりました。また、レンガが崩れ落ち、鉄骨が剥き出しになった建物の写真や、模型を使って原爆の被害の大きさを表す動画などを見て、改めて原爆のおそろしさや悲惨さを知りました。

二つ目は、平和記念式典での様々な人の話です。その中でも特に、広島を代表する2人の小学生の話や、国連事務総長の話が印象に残っています。小学生の2人は、各国の代表の方など、世界中に向けて、「自分が優位に立ち、自分の考えを押し通すこと、それは、強さとは言えません。」と、はっきりと話している姿がとてもすばらしく、印象に残っています。また、国連事務総長のグテーレスさんは、自ら世界に向けて、核兵器の保有をやめるよう呼びかけると共に、自分達が原爆から何を学んできたのかを考え、それを行動に移すことの大切さを語ってくれました。

上野南中学校には、広島で被爆したアオギリの木二世があります。このアオギリに込められた平和への願いを、毎年生徒会で語りついでいて、全校で平和の大切さを考える取組をおこなっています。

僕も、この広島派遣で学んだ平和の大切さを、学んだだけで終わらせず、たくさんの人に伝え、自分で行動に移していきたいと思います。



## 伊賀市立柘植中学校 徳永 有美

私は、夏休み前に戦争の特集番組を見て、戦争について知らないことが多いなと感じました。そこで、もっと学びたいと思い、広島派遣に参加しました。

原爆資料館で川崎さんから原爆による被害の凄まじさと生き延びて避難しても、喉が渇いて、放射線を含んだ黒いドロツとした雨を飲んでしまったと聴き、衝撃を受けました。川崎さんが辛い体験を話してくれたのは、戦争や原爆のことを一人でも多くの人に知ってもらい、感じたことをもっといろんな人に伝えてほしいという願いがあるからだと思います。

折り鶴タワー展望台を見学した時、ここが一瞬で焼け野原になったことを想像すると、ぞっとしました。そして、『戦争を起こしてはならない。人間が核兵器を持ってはいけないのだ。』と強く思い、広島平和記念式典の黙祷で平和を願いました。でも、世界では今も紛争や戦争が起こっていると思うと、いたたまれない気持ちになります。国連事務総長の『人類は、実弾が込められた銃で遊んでいるのです。』という言葉が忘れられません。

私たちが学んできたことを伝えることで、一人でも多くの人に戦争の悲惨さを知ってもらい、平和の輪を広げていきたいです。



## 伊賀市立霊峰中学校 伊藤 まりえ あゆみ

私が、広島派遣で印象に残ったのは、原爆の子の像と平和記念式典です。

原爆の子の像では、千羽づるを各学校で折って持っていきました。各学校の折りづるを見て、伊賀市の生徒がどれほど平和の大切さについて考えているのかが分かりました。

原爆の子の像の下には、鐘がありました。

私は、「世界が少しでもはやく平和になるように自分ができることをやっていきます。」という願いを込めながら鐘をならしました。

次に、平和記念式典に行きました。もくとうをしたとき、「戦争は二度とおこしてはいけないし、世界の人々が笑顔で平和に暮らせますように。」という願いをこめて、深く頭をさげました。

その後、平和宣言や平和への誓い、内閣総理大臣などの話を聴いていると、それぞれの気持ちが伝わってきて、たくさんの方が平和を願っているということが分かりました。

この二日間を通して、戦争は絶対におこしてはいけないし、原爆をつくったらいけないと思いました。私がこの二日間で学んだことを家族や学校の人たちなどのたくさんの人たちに伝えるなどといった行動をして、少しでもはやく戦争のない、笑顔あふれる世界にしていきたいです。





## 伊賀市立島ヶ原中学校 金子 裕人

「幅広く流れる大きな川も源流のいちばんはじめは一滴一滴の水滴です。皆さんには、平和な未来をつくり上げるための一滴になってほしいんです。」

資料館で被爆体験講話をして下さった川崎宏明さんは最後にこう語って下さいました。僕はこの言葉がいちばん心に残りました。

僕は以前に一度、修学旅行で広島を訪れ、その時は白石さんという方の講話を聞かせて頂きました。川崎さんも白石さんも小学生の時に被爆されました。それぞれ違った視点からの講話でしたが、二人とも講話のまとめとして、今日聞いた内容を家に帰ってから家族や他の人に伝えてほしいと話していました。それぞれの体験したことは違っても、核兵器を二度と使ってほしくない、原爆の恐さを忘れてほしくないという思いは同じなんだなと感じ、僕はこの思いをしっかりと受け継いでいこうと思いました

二日目は平和式典、本川小学校の見学、そして、折り鶴タワーの展望台に登りました。展望台からのながめはとても壮大で、広島市内を端から端まで見渡せました。七十七年前に、原子爆弾で町が壊滅状態になったとは思えないほどきれいな町なみでした。このきれいな町なみ、人々の暮らし、平和な未来を維持していくために、まずは一滴の水滴として、僕が広島派遣で学んだことを、周りの人にも伝えていこうと思いました。



## 伊賀市立阿山中学校 中林 優夢

私は7月29日に行われた事前の平和学習会で、戦争の恐ろしさや、命が奪われることの悲しさなどを改めて感じました。本格的に本土空襲が始まり、自分と同じくらいの中学生の子たちが、まともな食料も衣服もない状況で、きつい仕事をさせられていました。それでも、「国のため」と信じさせられ、みんな必死で働いていました。しかし、その大勢の命と幸せな日々は、原子爆弾によって一瞬で奪われました。町も一瞬で焼け野原となりました。爆心地近くで被爆した人の中には、全身にやけどを負った人、手足を失った人、遺体すら残らなかった人もいました。一瞬で大勢の命を奪ってしまうものがあるということの恐ろしさを強く感じました。原子爆弾は、大勢の人の命を奪ったあの一瞬だけでなく、町が復興してきた今もなお、大勢の人に悲しみを残しました。二度とこのような悲劇がくり返されないよう、自分から身の回りの人に、戦争の恐ろしさや命の尊さを伝えていきたいと思います。



## 伊賀市立大山田中学校 中田 皓仁

僕は、広島派遣事業に参加するまでは、平和についてわかった気でいたけれど、広島に向かっていく新幹線の中で改めて「平和ってなんだろう」と考え、その答えを見つけることを自分の中での課題として広島で二日間を過ごしました。

広島平和記念資料館では原爆の三〜四千度くらいの熱で溶けたビンやガラス、遺品が展示されていました。それを見て僕は、こんな悲惨なことがこの広島であったのかということと同時に、本当にこんなことがあったのかと疑う気持ちにもなりました。

この資料館で原爆の惨状を写した痛ましい写真を見て、なぜこの人はこんな傷を負わないといけなかったのか、なぜこの人は死ななければいけなかったのかということ強く思い、悔しい気持ちになりました。

そして毎年、テレビの前で黙祷をしていたけれど、原爆が投下された現地で被爆者の方々に対して直接黙祷をしたいという気持ちと、現地に行って七十七年前の様子や当時の思い、そして今、平和を願うたくさんの人々の思いを直接感じたいとずっと思っていた平和記念式典に参加しました。正直、ここは本当に七十七年前に原爆が投下され、焼け野原になってしまった広島なのと思うほど、草木が生えて復興していました。そして、原爆が落とされていなかったら、こんなにも多くの方が悲しむ必要がないと考えると、原爆は必要じゃないし、戦争を世界からなくさないといけないという気持ちが強くなりました。

最後に、この広島派遣事業を通して平和について考えると、平和とは性別や年齢、貧富の差に関係なく、安心して暮らせることだと思いました。だから僕はこれからまずは身近なところから自分も周りも安心して暮らせるようにしていきます。



## 伊賀市立青山中学校 吉村 和珠

私は、広島派遣で心に残ったことが二つあります。

一つめは、原爆ドームについてです。

私は、小学校4年生まで広島に住んでいました。幼稚園の頃から、「アオギリの歌」や「おりづるの歌」という平和の歌を歌い、小学校の頃は8月6日が登校日で全校生徒が体育館に集まり黙祷し、その後平和学習をしていました。幼いながらも、平和な毎日を過ごせていることは当たり前ではなく、有り難いことなのだと考えていました。

そのことを思い出しながら原爆ドームをよく見てみると、原爆が落ちた時の様子・形がそのまま残っていたので、原子爆弾は一瞬にして何もかもを破壊してしまう、とても恐ろしい物だと改めて感じました。

また、原子爆弾が投下された出来事がそのまま残っており、もう二度と戦争をしてはいけない、絶対に核兵器を持つてはいけない、ということ幼少期から学んできた記憶がよみがえってきました。私たちが核兵器の無い世界、平和な世界を少しでも早く実現させていかないといけないんだと思いました。

二つめは、平和記念式典についてです。式典の中でも特に心に残ったのは、子ども代表の平和への誓いです。代表の2人が言った「過去に起こったことは変えられません。しかし、未来は、創ることができます。」という言葉がありました。

「確かに、原爆が投下されたという事実を変えることはできない」と改めて思うと同時に、私たちは原爆の恐ろしさを知っていて、学んでいるのだから、「平和な未来を創ることは必ずできる！」と強く思いました。

私は、「原爆が投下された」という事実を、それだけで終わらせたくありません。平和な未来を創るために、広島の子と学んできたことや、自分が学び感じたことを、学校の友達や、ここにいる大切な人達と分かち合うため、発信していける自分になりたいと思います。



